

13号 特集 メンバーが主体的に取り組み始めた国際交流

職員主導からともに作り上げる交流へ

第8回日米メンバー交歓会から見えてきたこと

国や言葉の違いを超えて、アメリカと日本の精神障害者が心を通わせた。やどかりの里のメンバーと職員が、来日する人々をどう迎えるのかを話し合い、準備を進めた結果だった。来日する人々のことに思いをめぐらし、自分たちの精一杯の歓迎ができた。そして、互いに心を開いた、響き合う関係が生まれた。こんな暖かな楽しい触れ合いが、いつでもどこでも当たり前展開されるなら、21世紀の私たちの社会は豊かになっていくはずである。